



発行所
大阪府農業会議

大阪市中央区農人橋 2-1-33
JAバンク大阪信連事務センター3階
電話 直通 06(6941)2701~2
http://www.agri-osaka.or.jp

発行人 中谷 清

年金の
お受け取りは
JAで

JAバンク大阪(JA/信連)

JAバンク大阪へ

検索

主な記事

◎農委大会講演
コメ生産・流通の現状と課題
東京大学大学院
特任教授 鈴木 宣弘氏と面
◎大阪産農産物を展示
母子生活支援施設へ寄贈
大阪府農業経営者会議 5面

守るべき農地の明確化

地域計画の実現に向けて

泉南市農業委員会

泉南市農業委員会(東和宏会長)は、今年3月の地域計画策
定以前から、守るべき農地を明確化し、担い手への農地集積・
集約化を進めてきた。新規就農後、順調に作付面積を伸ばし、
更に規模拡大意向のある担い手もあり、市と共に地域計画のブ
ラッシュアップを行うにあたり、今後、地域農業の中心となり
得る担い手の意向と、農地の貸し手の意向のマッチングを引き
続き進めていく。

就農9年で1ヘクタール超へ

泉南市・岡田亮さん

「自分で栽培をはじめてから、
営業への熱の入りが変わった」と話すのは、泉南市内でタ
マネギを約110㍓栽培する岡
田亮さん(39)。青果の卸売、
パッケージ、一次加工を行う株
式会社イノウエの代表取締役も
務める。

農業者と接する中、自身でも
やってみようと考えた岡田さん

は平成28年に泉南農業塾に入塾。
栽培の基礎を学び、30㍓の農地
で就農した。

熱心に栽培する姿勢が評価さ
れて農委から都度農地を紹介さ
れ、現在の面積まで規模を拡大
してきた。不在村地主の所有地
で遊休化していた農地もあった
という。

今後について岡田さんは、

集団農地が比較的多く残る泉
南市では近年、都市計画法に基
づく地区計画による開発案件の
手続きが、一部の集団農地内で
進められてきた。農地利用の最
適化に向けては、将来に渡り残
すべき農地の担い手への集積に
長期的に取り組む必要があった。
担い手対策については、加工
用ネギ生産者や農業参入企業と
いった規模拡大志向のある者に
農地を集積するとともに、平成
27年度に開設された泉南農業塾

「今年は移植機も買って面積
を増やす体制は整っている。
泉州たまねぎの良さを広く
知ってもらうためのPRと、
栽培面積の拡大を頑張ってい
きたい」と意気込みを語る。

東農委会長は「農地の保全
と担い手育成の両方が欠かせ
ない。引き続き担い手へ農地
を集積し、地域計画の実現を
通じて、泉南市農業を将来に
残すために取り組んでいきな
い」と話す。

(田村)



「農業の大変さを実感しています」と岡田さん

(令和4年度にNPO法人化)
の営農指導や、新規就農時の農
地のあつせん等に携わってきた。
同塾からは8人が市内で新規就
農し、他の卒業生も様々ななか
ちで同市農業に関わっている。
同市農委では所有者や相続人
の利用意向を事務局と委員で共
有し、離農の意向が示された際
には地域の担い手に繋げ、すぐ
に貸借が成立しなかった場合も
継続して借り手を探すこととし
ている。

風速計

環境省は今年
度上半期の全国
のクマ出没件数
は速報値で2万
件を上回り昨年
度同期の1・3
倍を超えたと発

表。連日クマ出没報道があ
り、人的被害も過去最悪◆
クマが市街地に現れるのは、
山に餌がない、里山が荒廃
し山と里の境界が曖昧にな
ったことなどが原因とされ
る。そのため、環境省は
クマと人のゾーニング管理
とその間の緩衝帯設置をモ
デル事業で実施◆この緩衝
帯設置は地域の住民が主体
となり、行政と協力しなが
ら長期に取組む必要があり
、労力と資金が必須である◆
ところで、クマ被害が拡大
し、駆除が必要にも関わら
ず駆除した自治体を批判す
る人がいる。彼らの家の周
辺や通勤・通学路でクマが
出現したため、自治体がク
マを駆除しても同じことが
言えるのか。クマを保護し
たいなら、批判よりも緩衝
帯設置に対する人的、資金
的支援の方がよほど建設的
な取組だ。

(藤岡)